愛光会だより

第115号

桜島学園　和光学園　桜町学園　フレンドリーホームいいぐま
総合サポートセンター ラン　おひさまキッズ　福祉総合相談支援センター あい
小規模多機能ホーム あいわ

令和６年８月１日発行

発行・編集　社会福祉法人　愛光会
鹿屋市海道町 729 番地６　TEL　0994−46−2821
FAX　0994−46−2825
http://www.aikohkai.com/

作品名「あいわリウム」
制作活動がつなぐ
利用者様とあいわの楽しさと笑顔の輪

障害者の意思決定支援について

社会福祉法人 愛光会　理事長　指宿　章子

令和六年度報酬改定において、障害者支援施設等の指定基準に全ての施設入所者の地域生活移行に関する意思決定支援を確認することと、施設外の日中活動利用意向についても意思決定支援を行い、利用者様の希望に応じたサービス利用に繋げ、併せて意思確認担当者の選任を行うよう規定され、令和八年度から義務化、未対応時は減算の対象となることが記載されています。また、障害児入所施設等も、家庭的な養育環境の確保として小規模化、専門的支援の充実、成人期に向け地域移行支援の強化、家族支援の充実が求められています。障害者総合支援法の基本理念に障害者本人が「どこで誰と生活するかについての選択の機会の確保」を規定し、指定相談支援事業所及び指定障害福祉サービス事業所に対し障害者等への意思決定支援に配慮し努めるよう規定され「意思決定支援の重要な取り組み」として位置付けられています。日常生活、社会生活において障害者の意思が反映された生活が送れるよう支援することは自己決定の尊重、人権擁護に基づき福祉サービス提供者として重要な位置付けとなります。自己決定が困難な障害者へは、ご本人が理解しやすいような工夫と意思決定しやすい人的環境的配慮が必要です。様々な障害を抱え意思確認方法等本人の思いが個別支援計画、福祉サービス等利用計画に反映されるよう工夫することは基より意思決定支援ガイドラインを踏まえ各事業所の実態、各障害者の状況に応じて意思決定支援に努めなければなりません。利用者様へ、どこで誰と過ごしたいのか希望を尋ねますと「・・・」元気な返答が聞かれています。ノーマライゼーション理念、権利擁護への認識をベースに利用者様の思いを尊重し利用者様の最善の利益に繋がるような意思決定支援に合理的配慮を含み、本人が望む生活が実現できるよう、取り組むことが身近にいる代弁者として私達の役割となります。

これからの桜島学園

桜島学園　施設長　山之内　伸

日頃から当園に対しまして、温かいご支援、ご協力を賜りまして心より感謝申し上げます。

私は令和五年十二月一日付をもちまして桜島学園の施設長職を拝命いたしました。何分浅学菲才の身ですので、皆さま方のご指導ご鞭撻よろしくお願いいたします。

さて、社会的養護を取り巻く環境は変革の時を迎えています。改正児童福祉法の施行に伴い、都道府県社会的養育推進計画の見直しが進んでいます。国は、家庭養育優先原則に基づき、家庭での養育が困難又は適当でない場合は、里親やファミリーホームを優先し、施設には、できるだけ家庭に近い養育環境の形態を求め、さらに地域拠点として、家庭に戻ったこどもへの継続的なフォロー、里親支援、自立支援、アフターケア、地域の子育て家庭への支援など、高機能化や多機能化を進めるよう求めています。当園でも小規模化、地域分散化については進めていますが、高機能化や多機能化については、進んでいない状況です。そこで県外の先進的な取り組みをされている施設を訪問させていただき、高機能化、多機能化、養育などの研修を受けさせていただいています。その中で、創設者の思いや、施設が今まで培ってきた養育を基本とした考え方を大切にすること。地域に出て初めて様々なニーズを知り、それに対応するために新たな事業を展開されたこと。また、お預かりした子どもをしっかりと養育し家庭や社会に送り出すために何が必要か吟味し職員の専門性の向上に取り組んでいることなど、様々な考え方や、実施している事業など学ばせていただきました。今後桜島学園として何ができるのか、しっかりと足元を見ながら検討する必要があると考えています。先ずは人材確保や育成が急務であると考えています。

私のリフレッシュ法

和光学園　生活支援員　蔭山　鈴子

日々のストレスと闘う仕事人にとって、気持ちの切り替えはとても重要な課題ではないでしょうか。ストレスがもたらす体への悪影響には深刻な問題があるため、いかにストレスを軽減できるかが大切だと思います。そこで、私のリフレッシュ法を改めて考えてみました。私は十数年前より韓国ドラマにはまっており、まさに「韓ドラ」が私のリフレッシュ法となっています。きっかけとなったのは、とてもベタですがいわゆる「冬ソナ」あの有名な「冬のソナタ」です。韓ドラ特有のドロドロ劇にまんまとはまってしまい、抜け出せなくなりました。しかし、最近見ているドラマはドロドロの少ない「ラブコメ」と言われる分野がほとんどで、乙女心がキュンキュンする作品を選んでいるため、今では気持ちがどんどん若返り、気分はまさしく二十代、キラキラと呼ばれる年代です。イケメン俳優に癒やされ、心が若

くいられるのはとても幸せなことであり、明日への活力となっています。現実とはかけ離れたドラマの世界ですが、これからも見続けて、いつまでもキラキラな乙女心を大切にしていきたいと思います。

最後に家族にも言われるのですが、「これだけ韓ドラを見ているのだからそろそろ字幕はいらないのでは？」と…。そうなったらどんなに良いだろうと思いつつ、今日もしっかり字幕付きでドラマを楽しんでいます。

イソップ童話からみる障害者支援

桜町学園　生活支援員　小脇　茂樹

突風で無理やり上着を吹き飛ばそうとする北風と、穏やかな陽光で暖め自発的に上着を脱いでもらおうとする太陽を、描いたイソップ童話「北風と太陽」を通じて、障害福祉支援を考察すると、非常に重要な教訓を得ることができる。

障害を持たれている方が、直面する課題は多岐に渡り、対応する方法も様々であるが、望ましい支援の形は、対象者様本人が問題を解決できるよう、行動を促す支援をすることではないだろうか。前述の童話内において、北風が起こす突風は外的な行動制限、または行動の強制ともいえ、支援を受ける相手にストレスや抵抗感といった負荷を与えるだけで、支援が帰結しないものになってしまう。相対して、太陽のように暖かく包み込み、自発的な行動を促すアプローチこそ、障害福祉支援において、求められる方法ではないかと言える。

また、すべての障害者の方へ画一的な支援ではなく、個人のニーズを理解したうえで、個々の要望に応じた支援を提供する柔軟な対応が求めている。これまでのことを総じて論ずれば、北風の行っている行動は、「強制」「画一的」といった前時代的な「やってあげた」「してやった」という強制的な手段を示し、現代に求められる支援ではない。現代において求められる支援とは、「強制から共感への変化」と「集団に対する画一的支援」から「要望の理解と個々の要望への対応」であり、太陽のように共感と理解に基づく温かな支援ではないかと思う。こういった理念を基に、現在行っている支援内容を常に見直し、より良い支援の実現に取り組んでいかなければならないと感じている。障害を持たれている方々が、本人の可能性を発揮できる支援を提供するためにも、現場対応を行っている支援職員は「太陽」のような立場で、障害を持たれている方々の思いに共感し、個人の要望にマッチした支援を可能な限り提供していくことが望ましいのではないだろうか。理想的なことではあるが、今後の支援を色鮮やかな可能性に満ちたものにするためにも、努力して実現に結びつけていきたい。

タイムマシン

フレンドリーホームいいぐま　主任生活支援員　園内　洋一

「もしタイムマシンで、就職活動中の学生に戻ったとしたら、今の会社に入りますか？」

あるリクルート会社が社員の意識調査を行った結果では、「今の会社は第一志望にはしないけど、職場や仕事は今と同じがいい。」「過去に戻っても、現在の職場で一緒に働いている人達と働きたい。」と思う回答が多い傾向であった。

愛光会へ入職して十三年目。前職とは全く異なる業種からの転職で、知識や技術もない中これまで継続できているのは、職場の上司や先輩・同僚・利用者様との関わり、家族の理解があってこそだと感じている。

勤めている間には退職される方もおり、その都度、自分には仲間として何ができたのだろうかと考えさせられる。職場の離職率を下げる方策として、職員の信頼関係や安心感を醸成し、結束力を高めていくことが重要であることは理解できるが、具体的に実践するのは簡単なことではなく、みんなの理解と意識が大切であると思う。

業務改善が急務となり、無理・無駄をなるべく減らすことが必要とされる中、私は無駄と思われる「職場の余白」こそが、職員とのコミュニケーションを図る上で一番大切だと感じている。日頃の悩みや支援・業務に関する話をするにしても、相手に対して一定の安心感がなければ信頼を得られない。例えば、無駄話とも思えるような会話や何気ない雑談が、知らなかった一面やお互いを知ることに繋がる時も多く、それが話しやすい環境になっていくのではと思い、そのような職場づくりに励んでいる。

「タイムマシンがあったら行ってみたいのは過去？未来？」。

そんな無駄話を、これからも笑いながらできる職場でありたい。

入所施設からグループホームへ

総合サポートセンターラン　主任生活支援員　鶴田　正美

令和六年四月からグループホームりん２（西原）とりん４（海道町）ができ、新しく六人の仲間が増えました。フレンドリーホームいいぐまから三名と和光学園から二名、また桜町学園から一名の入居で『りん』十一名『れん』八名の十九名で令和六年度はスタートとなりました。

四月からの生活について日中活動の場は変わらないのですが、住む場所が変わったことに対して感想を聞いてみました。

「一人暮らしに憧れていたのだけど、グループホームは楽しい」「買い物や外食に出かける機会が増えてうれしい」「風呂掃除や麦茶の準備など、自分でしないといけないことも多いけど、職員も近くにいるので安心」。一方、「今までの生活と、ほとんど変わらない」と言われる方もいました。

職員は利用者様の「こんなものが欲しい」「こんな生活がしたい」などそれぞれの思いや話を聞きながら、一緒に買い物や外食に出かけたりすることで、より具体的な将来像や計画が描けるよう、身近な存在として自立を見守り支援しています。

りん２

りん４

両親の老い

福祉総合相談支援センターあい　事務員　有馬　たか子

私たちが成長する過程で常に支えてくれた両親も、やがて年を取り、体力や健康状態が変わっていきます。

先日、久々に実家の手伝いに帰ると、少し小さく感じた父の姿に少し戸惑いを感じました。しかし、これは自然なプロセスとして理解することが重要で、これからの両親とのかかわりが大事になることを実感しました。幸い実家の近くに弟や姉も住んでおり、日常生活においてのサポートや健康管理の手助け、定期的な病院の付き添いや、必要な医療サービスの手配を行うことなどの協力体制は十分と言えるでしょう。但し、ここからがスタート、両親の自立心を尊重することで自分のことを自分でできる喜びや達成感は、年を取っても変わりません。両親が自分でできることを奪わぬよう見守ることも必要になるでしょう。さらに、コミュニケーションの重要性も忘れてはなりません。年を取ることで孤独感や疎外感を感じることも多くなるので、定期的に連絡を取り合い、話を聞くことで、心理的な安心感を与えることも必要になってくると思います。両親との絆を深める時間を持つことで心の健康にも良い影響を与えることになるでしょう。両親の生活環境や健康状態に合わせた適切なサービスを選び利用することで、家族全員が抱え込まず、無理なく両親を支えることができ、私たち自身も将来の自分を考えるきっかけとなり自分自身の成長にも繋がっていくと思います。

最後に、両親が介護保険サービスを利用しながら祖母を百三歳まで介護してきた背中を見て、今度は私たちもその日を迎えようとしています。そして、その子どもが次の時代で私たちを介護する日がくるのが怖くもあり、少し楽しみでもあります。

現状維持は退歩なり

小規模多機能ホームあいわ
主任計画作成担当者　前原　優子

あいわに異動して三年目を迎えました。異動前には、障害関係に長く携わっていましたし、福祉に携わるうえでの資格はそれなりに取得していましたので、異動するとなっても何とかなるだろうと安易に考えていました。実際のところ、それが実践で役立てたかと言えばまったくで、高齢者福祉の現場で一年生という気持ちで初心に戻り、一年目は本当に学びの年であったと思います。利用者様の顔と名前を一致させることから始まり、業務に慣れることに精一杯の日々が続きました。職員、利用者様に助けていただいて何とか業務をこなすことができたように思います。

二年目、少しは周りのことも見えるようになってきました。それにも拘わらず大切なことを見逃してしまうこともあり、後悔することもありましたが、心機一転、無我夢中で新しい業務にも取り組み、滞ることがないようにと、日々をこなすことに精一杯でした。

三年目、いまだに初心者マークを掲げている状況にありま

す。自分なりには取り組んでいるつもりでありますが、経験が足りず、周りの方々に助けていただき、何とか業務をこなしている日々です。自分の未熟さに何か学びをと思うことはあっても続かず、現状維持が精一杯ということを言い訳にしている日々を送っていました。そんな時に耳にした言葉が自分に足りないものを改めて気付かせてくれました。『現状維持は退歩なり』チャレンジすることを止めたら後退するばかりであるということに、ハッとさせられた思いがしました。日々の業務をこなしていく中で、取り組んでいくことは難しいことも多いかもしれませんが、一日五分でも学びの時間をつくり、スキルアップに努め、自分ができることをこれからも取り組んでいきたいと思っています。

令和六年度　社会福祉法人愛光会
保護者並びに役職員研修会
小規模多機能ホームあいわ　介護従業者　黒木　茂

令和六年六月二十二日にリナシティかのや三階ホールにて、「社会福祉法人愛光会保護者並びに役職員合同研修会」が開催されました。情報を共有し共通理解を深めることを目的に、今年度から保護者の方々にも参加していただき、総勢九十七名の参加者が集いました。

開会式では指宿章子理事長の挨拶から始まり、これまで当法人の発展にご尽力いただいた和光学園の有嶋君夫副施設長、有満法子調理員の表彰式が行われました。

理事長挨拶

令和六年度の運営方針について本部事務局を含めた八つの事業所がそれぞれ発表し、能登半島地震に伴う派遣報告では、派遣職員である和光学園の前原祐樹生活支援員と桜町学園の田中健太郎生活支援員が、派遣先での貴重な体験を発表されました。事業内容紹介では、桜町学園と総合サポートセンターランが事業所で行っている支援の内容等を参加者に紹介しました。

研修「成年後見制度について」では公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート鹿児島支部で司法書士・行政書士いちざき事務所の壱崎健一様にご講話いただき、質疑応答では職員からの質問にわかりやすく対応していただきました。

来年度はさらにより良い研修会開催に努めて参りたいと思います。今後も皆様のご協力のほどよろしくお願いいたします。

研修「成年後見制度について」

表彰式

ペットボトルキャップを集めて、世界の子どもたちへワクチンを

愛光会は七月九日、職員や利用者様で集めたペットボトルキャップを鹿屋市社会福祉協議会へ寄贈しました。

鹿屋市社協では、以前より「ペットボトルキャップ回収事業」を実施されており、回収したキャップを換金し、「世界の子どもにワクチンを日本委員会」を通じて、世界の子どもたちへワクチン（ポリオワクチン等）を届ける活動をされています。

愛光会でもこの事業に賛同し、地域貢献担当者会を中心に、これまでキャップの回収に取り組んできました。この度、回収したキャップが一〇〇キログラムを超えたため（合計一〇四キログラム）、指宿章子理事長が代表して鹿屋市社協の岡事務局長にお渡ししました。

職員及び利用者の皆様、ペットボトルキャップ回収にご協力いただき、ありがとうございました。

社会福祉法人 愛光会　令和５年度収支決算報告書

資金収支計算書　第１号第１様式

社会福祉法人　愛光会
法人全体

㈱令和５年４月１日 ㈲ 令和６年３月31日（決算）　　単位：円

勘定科目			予算（A）	決算（B）	差異（A）-（B）
事業活動による収支	収入	014 介護保険事業収入	80,736,000	78,264,093	2,471,907
		016 児童福祉事業収入	238,532,000	240,741,196	― 2,209,196
		018 就労支援事業収入	7,792,000	7,773,105	18,895
		019 障害福祉サービス等事業収入	852,114,000	857,220,919	― 5,106,919
		035 経常経費寄附金収入	1,710,000	1,750,400	― 40,400
		036 受取利息配当金収入	26,000	2,764	23,236
		037 その他の収入	7,363,000	7,335,040	27,960
		事業活動収入計（1）	1,188,273,000	1,193,087,517	― 4,814,517
	支出	041 人件費支出	952,627,000	946,136,958	6,490,042
		042 事業費支出	193,881,000	181,030,979	12,850,021
		043 事務費支出	64,149,000	54,011,892	10,137,108
		044 就労支援事業支出	7,792,000	7,423,992	368,008
		055 支払利息支出	661,000	630,432	30,568
		056 その他の支出	2,550,000	2,508,461	41,539
		事業活動支出計（2）	1,221,660,000	1,191,742,714	29,917,286
	事業活動資金収支差額（3）＝（1）－（2）		― 33,387,000	1,344,803	― 34,731,803
施設整備等による収支	収入	061 施設整備等補助金収入	0	0	0
		施設整備等収入計（4）	0	0	0
	支出	081 設備資金借入金元金償還支出	5,256,000	5,256,000	0
		082 固定資産取得支出	7,425,000	6,301,960	1,123,040
		083 固定資産除却・廃棄支出	0	0	0
		084 ファイナンス・リース債務の返済支出	1,322,000	1,321,200	800
		施設整備等支出計（5）	14,003,000	12,879,160	1,123,840
	施設整備等資金収支差額（6）＝（4）－（5）		― 14,003,000	― 12,879,160	― 1,123,840
その他の活動による収支	収入	105 積立資産取崩収入	8,497,000	8,679,575	― 182,575
		118 その他の活動による収入	3,209,000	3,155,509	53,491
		その他の活動収入計（7）	11,706,000	11,835,084	― 129,084
	支出	124 積立資産支出	11,039,000	10,804,500	234,500
		138 その他の活動による支出	1,258,000	1,130,621	127,379
		その他の活動支出計（8）	12,297,000	11,935,121	361,879
	その他の活動資金収支差額（9）＝（7）－（8）		― 591,000	― 100,037	― 490,963
予備費支出（10）			6,600,000	0	6,600,000
当期資金収支差額合計（11）＝（3）＋（6）＋（9）－（10）			― 54,581,000	― 11,634,394	― 42,946,606
前期末支払資金残高（12）			642,890,024	642,890,024	0
当期末支払資金残高（11）＋（12）			588,309,024	631,255,630	― 42,946,606

詳細はホームページをご覧ください。各施設、事業所ごとに閲覧できます。
愛光会　鹿屋　検索

事業活動計算書　第２号第１様式

社会福祉法人　愛光会
法人全体

(自)令和５年４月１日 (至)令和６年３月31日（決算）

単位：円

勘定科目			当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)−(B)
サービス活動増減の部	収益	014 介護保険事業収益	78,264,093	73,179,380	5,084,713
		016 児童福祉事業収益	240,741,196	208,137,956	32,603,240
		018 就労支援事業収益	7,773,105	8,797,707	− 1,024,602
		019 障害福祉サービス等事業収益	857,220,919	865,687,526	− 8,466,607
		037 経常経費寄附金収益	1,750,400	3,864,389	− 2,113,989
		サービス活動収益計(1)	1,185,749,713	1,159,666,958	26,082,755
	費用	041 人件費	945,731,309	924,348,271	21,383,038
		042 事業費	181,030,979	183,375,727	− 2,344,748
		043 事務費	54,011,892	63,961,284	− 9,949,392
		044 就労支援事業費用	7,916,412	9,375,521	− 1,459,109
		053 減価償却費	43,868,208	43,252,675	615,533
		054 国庫補助金等特別積立金取崩額	− 14,775,251	− 20,679,874	5,904,623
		サービス活動費用計(2)	1,217,783,549	1,203,633,604	14,149,945
	サービス活動増減差額(3)=(1)−(2)		− 32,033,836	− 43,966,646	11,932,810
サービス活動外増減の部	収益	062 受取利息配当金収益	2,764	2,770	− 6
		078 その他のサービス活動外収益	7,702,561	19,997,003	− 12,294,442
		サービス活動外収益計(4)	7,705,325	19,999,773	− 12,294,448

勘定科目			当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)−(B)
サービス活動外増減の部	費用	081 支払利息	630,432	686,373	− 55,941
		098 その他のサービス活動外費用	9,083,230	12,304,336	− 3,221,106
		サービス活動外費用計(5)	9,713,662	12,990,709	− 3,277,047
	サービス活動外増減差額(6)=(4)−(5)		− 2,008,337	7,009,064	− 9,017,401
経常増減差額(7)=(3)+(6)			− 34,042,173	− 36,957,582	2,915,409
特別増減の部	収益	118 その他の特別収益	17,516,118	10,524,763	6,991,355
		特別収益計(8)	17,516,118	10,524,763	6,991,355
	費用	123 固定資産売却損・処分損	84,645	6,162	78,483
		125 国庫補助金等特別積立金積立額	329,560	0	329,560
		138 その他の特別損失	17,217,043	8,746,348	8,470,695
		特別費用計(9)	17,631,248	8,752,510	8,878,738
	特別増減差額(10)=(8)−(9)		− 115,130	1,772,253	− 1,887,383
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)			− 34,157,303	− 35,185,329	1,028,026
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)		610,574,547	645,759,876	− 35,185,329
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		576,417,244	610,574,547	− 34,157,303
	基本金取崩額(14)		0	0	0
	その他の積立金取崩額(15)		0	0	0
	その他の積立金積立額(16)		0	0	0
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)−(16)		576,417,244	610,574,547	− 34,157,303

貸借対照表　第３号第１様式

社会福祉法人　愛光会
法人全体

令和6年3月31日現在（決算）

単位：円

資産の部			
科目名	当年度末	前年度末	増減
001 流動資産	699,951,529	697,462,302	2,489,227
固定資産	990,357,334	1,022,169,677	− 31,812,343
002 基本財産	715,034,055	744,453,232	− 29,419,177
003 その他の固定資産	275,323,279	277,716,445	− 2,393,166
資産の部合計	1,690,308,863	1,719,631,979	− 29,323,116

負債の部			
科目名	当年度末	前年度末	増減
004 流動負債	129,259,496	114,355,321	14,904,175
005 固定負債	224,121,031	219,745,328	4,375,703
負債の部合計	353,380,527	334,100,649	19,279,878
純資産の部			
006 基本金	338,531,306	338,531,306	0
007 国庫補助金等特別積立金	305,731,786	320,177,477	− 14,445,691
008 その他の積立金	116,248,000	116,248,000	0
次期繰越活動増減差額	576,417,244	610,574,547	− 34,157,303
（うち当期活動増減差額）	− 34,157,303	− 35,185,329	1,028,026
純資産の部合計	1,336,928,336	1,385,531,330	− 48,602,994
負債及び純資産の部合計	1,690,308,863	1,719,631,979	− 29,323,116

令和５年度　社会福祉法人愛光会 各施設等における人権擁護推進及び相談・苦情等の受付状況

【対象期間】令和５年４月１日～令和６年３月31日

施設及び事業所名	種別	前年度未解決件数	月別受付状況 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	内容別受付状況（再掲） 人権侵害に関する件	物品購入に関する件	外出に関する件	病気に関する件	給食に関する件	利用者に関する件	家族に関する件	福祉サービスに関する件	その他	合計	令和5年度中未解決件数
桜島学園	児童養護施設			3	1		2				1			9	16	4				1	8		1	2	16	0
和光学園	障害児入所施設・障害者支援施設									3				5	8	1		1						6	8	0
桜町学園	障害者支援施設		1		2	1		1					1	21	27		11	7			4	3	1	1	27	0
フレンドリーホームいいぐま	障害者支援施設			1	1	2		1	1	2				11	19	1	1	4		1	1		1	10	19	0
総合サポートセンターラン	障害福祉サービス事業		3	1	3	4	2	1	3	2		1	2	2	24	2	3	2	2	3	1		6	5	24	0
おひさまキッズ	障害児通所支援事業				1	1		1	1				1		5				2			1	1	1	5	0
相談支援事業所あい	特定相談支援事業 障害児相談支援事業														0										0	0
小規模多機能ホームあいわ	小規模多機能型居宅介護事業	1							1						2						1		1		2	0
合計		1	4	5	8	8	4	4	6	7	1	1	4	48	101	8	15	14	4	5	15	4	11	25	101	0
受付の処理状況	解決件数	1	4	5	8	8	4	4	6	7	1		5	48	101	8	15	14	4	5	15	4	11	25	101	0
	未解決及び処理継続中														0										0	0
再掲	内第三者委員会へ報告						1	1			1			1	4	4									4	0
	内第三者委員を交えての話し合い件数														0										0	0

寄贈・ボランティア一覧（R5.12.1~R6.6.30）※順不同

桜島学園

- ユーコーラッキー 様
- ライオンズクラブ 様
- 岩下綾花 様
- 株式会社ゆのたに 様
- JA 鹿児島中央会営農サポートセンター青年部 様
- 鹿児島県漁業協同組合連合会 様
- あしなが音楽隊 様
- NTT 労働組合 様
- アイビルテクノサービス 様
- 中馬英機 様
- 足ながおじさん 様
- 小城製粉 様
- 帖地近行 様
- 牛込あゆみ 様
- そよ風果樹園 様
- 大野屋 様
- 加治屋スミ子 様
- 新宮領幸一 様
- フードバンク 様
- 内藤彰信 様
- 小脇すみ子 様
- 大地の子 様
- 第一生命労働組合鹿児島支部 様
- 株式会社ウィル 様
- 鹿児島市社会事業協会 様「愛の一円塔」寄金
- 鹿児島まぐろ同友会 様
- 日本鏡餅組合 様
- ほっともっと 様
- 鹿児島県共同募金会 様
- 杉木和子 様
- 堂園哲也 様
- 竹之下次雄 様
- 日本児童養護施設財団 様
- 九州労働金庫 様

たくさんのご寄贈をいただきました。心から感謝いたします。

各施設新職員の紹介 ニューフェイス New Face

①好きなこと
②幸せを感じる時は？

和光学園
生活支援員
橋口（はしぐち） 将彦（まさひこ）

①ゴルフ　②食事

和光学園
生活支援員
久保田（くぼた） 巧人（たくと）

①ドライブ
②家族と過ごしている時間

桜島学園
保育士
石井（いしい） 月菜（るな）

①サッカー観戦
②好きな選手が得点を決めた時

桜町学園
調理員
松尾（まつお） 直美（なおみ）

①ドライブすること（今は子育てでなかなか行けないですが…）
②下の子がソフトボールをしていて、元気で活躍してくれる時やふざけて遊ぶ時などです

桜町学園
看護師
松浦（まつうら） 紀子（のりこ）

①買い物（洋服など）
②ドライブに行って、美味しい物を食べること

フレンドリーホームいいぐま
生活支援員
中嶋（なかしま） 佳恵（かえ）

①その時の気分に合った音楽を聴くこと
②美味しい食べ物を食べている時

フレンドリーホームいいぐま
生活支援員
稲村（いなむら） 優弥（ゆうや）

①温泉巡り
②帰宅した時、2匹の愛犬（ミニチュアダックス、トイプードル）が駆け寄ってくること

総合サポートセンター ラン
パート生活支援員
内倉（うちくら） 由佳（ゆか）

①登山・球技・体を動かすこと
②子どもの笑顔を見た時（爆笑している時）山頂についた時
美味しいものを食べている時

総合サポートセンター ラン
生活支援員
松浦（まつうら） 慎吾（しんご）

①食べ歩き（食べること大好き）
②家族とのお出かけ
こどもたちと遊んでいる時